



「ドングリを植えて育てて伐採して、シイタケを作りながら自然の循環を学ぼう！！」

助成区分		植樹	環境保全	調査・研究	教育・啓蒙	
実施状況	参加者数	132名	参加者満足度	75%	活動の全体目標に対する達成度	80%

活動目的

子どもの暮らしの場面で自然の循環を学ぶ場面が少なくなってきた。飯塚市では、かつてクヌギを伐採し木炭を作り暮らしを立ててきた人が多くいた。また、クヌギをホダ木にし、シイタケを生産した人も大勢いた。かつて、このようにクヌギを余すところなく利用する暮らし方が日常の目に触れてあった。子どもの体験活動を通して、自然が連なって循環していることを学ばせたい。

活動内容

ドングリを拾い、種を蒔き、苗を育てて、定植育て、そして、大きく育ったクヌギをシイタケの原木として活用し、栽培する。クヌギの木から多くの恵みをいただき、自然の循環を知る活動を行いました。



- ①ドングリ拾い・播種 鳥羽公園からドングリを拾ってきて、種をまく
- ②クヌギのポット苗の定植 3年経過した苗を法面に定植する
- ③クヌギの伐採 シイタケのホダ木として利用できるクヌギを伐採する
- ④シイタケのコマ打ち 伐採したクヌギに穴をあけ、シイタケの菌を木槌で打つ
- ⑤シイタケの調理 2年前にコマ打ちしたホダ木から出てきたシイタケを収穫し、料理を作って食べる
- ⑥落ち葉堆肥作り クヌギの落ち葉を集め、落ち葉プールや落ち葉堆肥として活用する
- ⑦朽ちた原木の再利用 朽ちたホダ木を細かく砕いて、畑や樹木の根元に撒き、自然に還す

成果

播種、育苗、定植、下草刈りと続く育樹活動、成木の伐採からホダ木のコマ打ち、仮伏せから本伏せを経てシイタケの収穫までの栽培活動と一連の森づくりとシイタケ栽培の活動を連続して実行できた。コマ打ちしてから収穫する期間だけでも2年を要する長丁場のシイタケ栽培に子どもも立ち合わせることができた。のみならず、子どもをクヌギの育樹活動に参加させ、持続可能な環境保全活動の実際を体験させた。成木の伐採からホダ木作りの過程は危険を伴う作業でもあるだけに、経験者の指導が必要不可欠である。この地方でも原木育成を含めたシイタケ栽培の全過程の経験者は極めて少なく、今回地元の実験者に会い、かつ、また子どもへの指導を引き受けてもらったのは幸運であった。

幼児向けの活動と児童向けの活動の仕分けも次第にわかってきた。収穫したばかりのシイタケを利用した料理を体験させ、シイタケの栄養価についても指導した。

工夫した点

- ① 活動を「幼児」のできる部分、「小学生」のできる部分に仕分けし実施した。
- ② 「森喜作伝」というシイタケの種駒を開発した森喜作さんの話を読み聞かせし、活動の導入とした
- ③ シイタケの生産者を講師に迎え、原木の管理や伐採の仕方など専門的な指導を受けて学習を深めた

今後の課題

原木の育樹からシイタケ栽培までの全過程を網羅した活動プログラムは立案し実働できた。しかし、参加した幼児や児童は、同一の個人が毎回参加できたわけではない。全過程を丸ごと体験して、初めて実感を伴った環境保全の必要が体得できる。一人でも多くの個人に全過程を体験させたい。シイタケの保存活用も体験させたい。